

久保田市長の第46回 全力投球



2期目への決意、未来を拓く

この度の市長選挙では、多くのみなさまから温かいご支援を賜り、再び市政を担わせていただくこととなりました。心より深く感謝申し上げます。選挙期間中、市内の隅々まで足を運び、市民のみなさまと直接対話するなかで、掛川の豊かな魅力と、この地に暮らすみなさまの強い想いを改めて実感しました。同時に、南部地域のにぎわい減少、駅前や中心市街地の活性化、焼却施設の建て替えなど、さまざまな課題への注文や期待の声もいただきました。

誰もが安心して暮らせる未来へ

過去4年間、100回を超える市民対話を通じて、みなさまが共通して抱える「この先も安心して暮らし、働き続けられるのか」という未来への不安を深く受け止めました。だからこそ、これからの4年間は「持続可能なまちづくり」の実現に全力を注ぎます。未来を見据えてAIを活用した新しい公共交通システムの導入や、

空き家を活用した移住・定住の促進など、公約に掲げた政策を着実に推進していきます。

新たな力と挑む持続可能な掛川

市議選により、新たに7人の議員を迎える市議会が開始しました。特に、過去最多となる7人の女性議員の誕生は、多様な市民の声を市政に反映させる上で、非常に心強い変化です。

最後に、6月は「環境月間」です。すでにごみ減量が全国トップクラスの掛川ですが、これからも世界に誇る持続可能なまちづくりを積極的に進めます。市民のみなさまとともに、未来へ向かって誰もが何度でもチャレンジできるまちに向けて、全力で取り組んでまいります。今後とも、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



2期目の初登庁をする久保田市長

オーガニックの まちをつくらう



Vol. 8

◎オーガニックビレッジ推進協議会

事務局(☎21-1216)

かつて掛川市は、アメリカに「オレゴン農場」という研修施設を所有し、当時の榛村市長の「21世紀は地球田舎人(いなかびと)たれ」という呼びかけのもと、多くの市民がこの研修に参加していました。私の初めての海外旅行も、このオレゴン研修でした。このオレゴン研修が私の有機農業の原点となっています。

オレゴン農場は72ヘクタールという広大な小麦畑を所有していたのですが、その畑は貸し出し、実際に取り組んでいたのはブルーベリーと野菜の有機栽培でした。後で知ったのですが、オレゴン州は「オーガニックの首都」とも呼ばれるほど有機農業が盛んな土地です。生産者がオーガニックの果物や野菜を直接販売するファーマーズマーケットは大盛況で、スーパーには有機農産物がたくさん並んでいました。もっとも、当時は「アメリカには変わった農業があるんだな」と思った程度でした。

ただ、「生産者が売るからファーマーズマーケットである」、「オーガニックが「正解」というのではなく、選べる選択肢があることが大事」という考え方はとても新鮮でした。何より、有機農業者が楽しそうに農業に取り組む、オーガニックについて一生懸命に語る姿が心に残り、それが、10数年後の「有機農業をやってみよう」という決断につながっています。

この話を市内ですと、「私も学生のときに参加したオレゴン農場研修が、今の仕事を指すきっかけでした」という方によく出会います。

元市長の掲げた「地球田舎人たれ」という夢が、少しずつ実現しているのかもしれない。



▲オレゴン農場(2000年頃)



▲オレゴンのファーマーズマーケット

しあわせ野菜畑代表 大角昌巳

